

指定校番号	30002	学級活動	○ 児童会活動	クラブ活動	学校行事
-------	-------	------	---------	-------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	竹原市立竹原西小学校	校長	藤野 恵子	生徒指導主事	高橋 倫子
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『児童会活動の活性化～楽しくあたたかい学校にしよう～』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成	社会参画	自己実現
「人間関係形成能力・社会形成能力」 1	「課題対応能力」 3	「自己理解・自己管理能力」 2

取組のねらい 『自律的に行動できる児童の育成』

- 児童会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。
- 子供たちの力でよりよい学校にしていくための活動をしていく風土を作る。
- 【高学年】児童会活動を通して、達成感、自己肯定感を高めさせる。
【低学年】高学年と共に活動を行うことで、模範的態度や自分の理想像を具体的にもたせる。

取組の具体的内容 『自分たちが楽しくあたたかい学校生活をつくる』という実践意欲の喚起

運営委員会

(1)「みんなを大切に作る学校にしよう」

委員会の子供たちは、自分たちの任期があと僅かとなった頃、「竹原西小学校のみんなが楽しく学校生活を送るためにできること」を全校に提案したいとの思いをもった。そこで、担当職員や生徒指導部も参加し、子供たちと取組内容について話し合う機会をもった。「みんなを大切に作る学校にしたい。そのために、友達について見直してみてもどうか。」と意見が出されたので、話し合っって次のことを行うことになった。

- ①全校朝会による取組の説明。(自分たちの気持ちを伝える。協力をお願いする。)
 - 低学年にも分かりやすいように、寸劇を見せる。(自分のわがままから人に嫌がることをしてしまうことや、悪気はなくても傷つけている場合がないかどうか、投げかける。)
 - 相手の気持ちを考え、思いやりをもって人を大切に作る学校にしていきたいという思いや、いじめをなくして笑顔いっぱい学校にしたいという自分たちの気持ちを伝える。
- ②掲示できるものをつくり、それを見て友達を大切にすることを意識してもらう。
 - 学級で「友達って〇〇〇〇〇」の言葉を考えてもらい、学校全体で一つの詩にする。委員会が、墨で書いて校内に掲示する。
- ③「ほっかほかメッセージ」を全体に紹介する。
 - 全校にカードを配布し、学年に関係なくうれしかったことや感謝していること等を書いた「ほっかほかメッセージ」を全校から募る。伝えたい気持ちを放送や全校朝会で紹介する。



～寸劇「こんなことはないですか?」～

(2)「みんなでいっしょに遊ボード」

「学年を問わずみんなで遊ぶ時間を作りたい」というメンバーの意見を具体化することになった。時折、運営委員が全員遊びを計画し、職員も一緒に全員遊びを楽しんできている。今回は、もっと気軽に同じ遊びをしたい人が集まることのできる機会を作ろうと企画した。

- ①まずは、多くの人が参加できるように、紹介ビデオを作る。
(キャラクターを設定し、自分たちが演じる。)
- ②全校朝会でビデオを使って、自分たちの気持ちや今回の企画の内容を周知する。
- ③ボードを設置し、日時・内容等を知らせる。
- ④遊びに関する準備や進行を行う。

遊遊戦隊 遊ボードマン!



～活動の紹介ビデオ作成～

「今日はおにご!」



生き物委員会

○生き物イラストコンテスト:「生き物に触れ、命の大切さを感じてほしい」との思いをもち、活動内容を計画した。とくに、雨の日の休憩時間には「イラストコンテスト」を計画し、学校で飼育している生き物を描いて楽しむことができた。生き物委員が〇〇賞を決めて校内掲示し、放

送で紹介したり賞状やメダルを渡したりした。

ベルマーク委員会

○**全校による作業の体験**：ベルマークの仕分け作業を縦わり班で体験する機会を企画した。委員会朝会で、いただいた一輪車を紹介し、協力に対するお礼の言葉を伝えた。

図書委員会

○**ポスター川柳コンテスト**：読書の感想を川柳に表し、イラストを添えたポスターを募った。ポスターは校内に掲示し、全校で投票して各作品に賞状を作って渡した。

○**読み語り**：朝の読書タイムに、1～4年生の教室で読み語りを行っている。図書委員が、各担任から聞いたおすすめの本や、季節や学年に応じた本を選んでいく。



～各委員会によるコンテストの実施～

取組の課題・創意工夫 『ねらいを明確に』

◎ねらいを明確にして、取組を考えさせる。

特別活動について校内研修を実施し、全教職員が委員会活動のねらいや活動の方向性についての理解を図った。また、担当教員だけでなく全体で取組の参考例を出し合い、実践に生かしていった。

取組の成果（効果） 『取組児童と参加児童の達成感』

○企画し実践した児童は、「自分たちで新しい取組を行うことができた。」「下級生がたくさん来てくれて嬉しかった。」「みんなが楽しんでくれてよかった。」「喜んでくれたので、また計画したい。」と充実感達成感を味わえることができた。また、仲間と話し合っって計画したり実行したりする中で、自分の意見をしっかりと出すことや折り合いをつけていくこと、目的を共有し仲間と協力することの大切さを感じ取ることができたと思われる。充実感も味わうことができた。

【児童のふり返りより】

～仲間や先生と協力して取り組めて楽しかった。(6年)～

～上手くいかないなあと悩んだこともあった。でも、意見を出し合い、5年と協力できることが増えた。(6年)～

～来年度も、委員会で工夫して楽しい学校にしてほしい。今年度のよかった活動をぜひ引き継いでほしい。(6年)～

～書く時も放送する時も、いつも下級生のことを意識するようになった。(5年)～

～みんなのために役に立っていると感じ、うれしい。6年になってもみんなが喜んでくれることをしたい。(5年)～

～上手くいかなかった活動があった。みんなで話し合っってもっとよい活動になるよう改善していきたい。(5年)～

○参加した児童は、活動を楽しむとともに「自分たちも高学年になったら、下級生のために何かやってみたい」という意欲や「高学年が自分たちのために楽しいことを考えてくれて嬉しい」という感謝の気持ちをもつことができていた。

○外遊びや図書室を利用する児童が増え、休憩時間の楽しみの幅が広がった。

委員会活動のふり返り（肯定的評価）1月実施

(%)

項 目	5年	6年
1 積極的に活動に取り組もうとしている。	100	100.0
2 仲間と協力しながら活動している。	97.7	81.0
3 委員会活動がなぜ大切なのかを理解している。	95.3	100.0
4 下級生の事を考えて活動内容を工夫している。	95.3	94.6
5 委員会活動は楽しくやりがいがある。	97.7	94.6

今 後 の 展 開 『ねらいを忘れず、よりよい取組に』

○今年度行った取組を児童とともにふり返り、上手くいっった取組はよりよい取組にするにはどうすればよいのか、上手くいかなかった取組はどう改善していくのか、来年度に引き継げるようにしていく。

○新しい取組をすることを目的とせず、自分たちの委員会のねらいを明確にして、そのためにできる取組は何か考え計画していくようにする。

○当番的・お手伝的な活動のみにならないよう、楽しく豊かな学校生活に繋がるという視点でも活動を考えさせる。児童主体の活動や取組を行うことができるよう、担当職員は道筋をつけたり児童の動きに対する支援を行ったりする。

他 教 科 と の 関 わ り 『有機的な関連付けを意識して』

○各教科の学習内容を特別活動に生かす。

(基礎基本の定着、思考力・判断力・表現力等、進んで学習する意欲、コミュニケーション能力)

○特別活動の経験を、教科の学習活動に生かす。

(話し合い活動、協力的・実践的な態度)

○道徳的実践の中心的な学習活動の場として特別活動を位置づけ、各活動の目標に含まれる道徳的価値を意識し指導する。また、児童会活動と道徳科授業を横断的に扱うことで、道徳的実践力の育成を促進させる。

